

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) ジブチ国別研修「ジブチ国初等・中等理数科教員養成」

(英文) Project of Capacity Building of professors of Mathematics and Science for primary and secondary education

(2) 研修期間 平成 26 年 10 月 20 日～同年 10 月 28 日

(全体受け入れ期間：平成 26 年 10 月 15 日～同年 10 月 29 日)

(3) 研修員数 5 人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

2. 研修実施概要

(1) デザイン (研修期間・カリキュラムの構成)

本研修の上位目標は「日本の教育経験の学習を通じて、自国における教育の質の向上 (カリキュラム作成, 教員研修, 理数科授業) へむすびつくテーマが特定されるとともに, 今後 2 年間の研修アウトラインが策定される」である。その目標を達成するために, 日本における研修時期および期間は研修中心者であるジブチ国国家教育・職業訓練省幹部の日程を最大限尊重して設定した。研修準備に十分な時間が確保できなかったことや, 現地の情報が限られている中での研修計画であったため, 今回の研修に対して研修員が作成したミッションレポートを検討し, 「職務の課題」, 「現状の改善に向けて企図する活動」を参考に研修を立案した。しかし, JICA 側の研修意図が十分には把握できず, 研修計画策定中に計画変更を余儀なくされる場面も生じた。研修内容は JICA 側で作成するとの連絡の基で開始した研修であったが, 研修内容の意味する点が明確でないため, 通常受託研修と同様の対応をしていいものかどうか迷いながら準備をすすめる結果となった。このような準備状況の中で研修の計画, 研修先の交渉等を行ったが, 十分な研修準備時間が確保できない中での研修となったのが残念であった。

しかしながら, 訪問予定先のご厚意により, 教育行政から教育現場までの視察も研修に組み入れることが可能となり, 大学での講義, 教育現場視察, 提言の作成と短時間ながら密度の濃いカリキュラムデザインを構成することができた。特に, 学校を充実させる方策をとってきた県教委の取り組み, 教員研修について研修できたことは, 有意義であった。また, 研修のために特設した理科授業を公開できたことは, 研修員の日本の授業理解のために有意義であった。しかしながら, 研修員が興味を持っていた教員評価, 学校評価等の具体策については, 十分な時間をとることができなかったことが今後の課題である。

アクションプラン作成については求めていないとのことであったが、国家教育・職業訓練省幹部の参加で次年度以降の研修内容に対する方向性を探る目的があることから、研修で得た知見をもとに本国で取り組みたいことを明らかにするアクションプランを作成する時間をとった。また、日々の振り返りを記録する時間を研修の中で確保して欲しい旨の話があったが、研修が終了時間ぎりぎりまで行われ、また研修の移動に時間を要したことから、振り返りの時間の確保が難しく、研修員自身がホテルで作成することとしたが、時間が確保できなかった点に課題が残った。

カリキュラムは日本の教育行政、教育システム等の概要について研修を行い、これらの切り口から行政現場での教育施策、学校での教育実践がとらえられることを念頭に作成した。また、教員研修についても行政レベルでの研修と学校現場レベルでの研修についての研修を行った。全体カリキュラムの構成は、1：日本の学校制度、教育制度、評価等の基本講義、2：教育行政及び学校現場、教員研修センターの視察研修、3：アクションプラン作成の3段階とし、全ての講義・視察が次年度以降の研修の方向性につながるように配慮した。

(2) コンテンツ (カリキュラム内容・研修教材)

研修期間が10日間という短期であるために最初の2日間を大学での講義中心の研修、その後教育行政、学校現場、研修センターの視察研修、2週目にアクションプランの作成と発表という計画で研修を実施した。大学での講義では、最初に日本の教育行政、システムの概要、学校教育の現状について講義を行った。その後県教委の組織と概要、学力向上への取り組み、市教委での学校運営のための学校評価、教育力向上のための研修について学習した。また、小学校現場では小学校の教職員組織、教育充実のための校内での取り組みとして校内研修および授業研究について研修を行った。また、教育現場における教員研修の中心である教育センターを見学し、その職務に関する研修、理科の授業を見学し研修を行った。

日本の教育行政については、文科省初等中等企画課長補佐から、文科省の組織や教育行政について担当している立場からの講義を行った。また、日本の教育システムについては、日本の教育制度の成立から現在までの歴史、日本の教育制度の特徴やカリキュラムの概要、教育現場の状況について研修を行った。研修員から多くの質問があり、講師が準備した資料を全て説明することができなかったが、非常に充実した研修であった。

講義の後、高知県に移動し、高知県教育委員会では、非常に忙しい中、教育長、教育次長出席の下、教育政策課課長及び小中学校教育課課長からその職務の概要と学力向上への取り組みを聞くことができた。また、手厚い歓迎ぶりに

研修員も感激の様子で、地元テレビ局各社の取材もあり、研修生にとってもインパクトの強い研修であった。

土佐市の識字学級の視察では、多忙にもかかわらず市長および教育長の出席を得、識字学級で学習した高齢者の体験談や識字学級を支える中学生の状況及び交流を行った。高齢にもかかわらず学び続ける姿に感銘を受けたようであった。ジブチにとって学ぶことの意味は、職業を得、その職業を円滑に実行するための学びであり、自分の生活を豊かにするための学びについて知ったことは、意義深いものであったとの感想が寄せられた。

香美市教委では、市長が同席の下、教員のスキルアップに関する取り組みを中心に研修を行い、教育行政で行う研修の具体策が理解できた。小学校では、学校概要の説明、授業視察、給食の体験、児童との交流、校内研修、人権教育、図書館教育など多岐にわたる研修・視察を行った。学校側の丁寧なもてなしがあり、さらに多くの知見が得られたことから、ジブチの小学校と訪問校で姉妹校の提携をしたいとの申し出があった。

教育センターでは、その職務や概要についておよび教員研修について講義および施設見学を行った。教育センターの役目と教員研修に関しては、研修員が強い関心を示し、ジブチで設立されている教員研修所での研修計画を作成していく上で、重要な資料となる旨のコメントが寄せられた。また、ジブチ側から教員研修センターと今後も交流していきたい旨の話があった。小学校での理科授業の観察と授業研究に則した事後の研究会の体験も印象的であり、さらに授業研究の講義の理解にも役だったようで、ジブチでも取り入れていきたいとの話があった。

(3) ファシリテーション

研修員が5名であるが、政府高官の来日と言うことで研修員との人間関係の構築を重視し、対応した。研修管理員にも細やかに、辛抱強く対応していただき、研修員からの信頼も厚かった。

食生活に偏りがあったため、研修員が料理を作る機会を作ったが、これは、研修員と良い交流の場となった。今後も、機会があれば同様の活動を行いつつ、人間関係構築につとめたい。